

「木をかじるネズミ、 かじらないネズミ」



1 野ネズミによる森林被害の動向

野ネズミによる森林被害は、1970年代までは全国で被害面積5万haにおよぶ深刻な問題でした。新規造林が減少し、野ネズミの大発生を予測する方法や薬剤による駆除などの防除技術が確立されたため、近年では野ネズミの被害は減少しています。しかし、それでも多い年には全国で1千haもの被害が生じています。近年の大規模な被害の大部分は北海道でのエゾヤチネズミによるものですが、局地的な被害は全国各地で発生しています。

2 野ネズミによる被害の様子

野ネズミは幼若齢林において、根や地際近くの樹皮と形成層とを食害します。被害がひどいと食害された木は枯死します。野ネズミの被害は、冬期に雪の下で生じる場合が多く、見つけにくいのが特徴です。春になり山へ行ってみると、最近植えた造林木が食害されていた、というのが典型的な被害事例です。

3 どんな樹種が被害を受けるのか

北海道のエゾヤチネズミの研究では、カラマツやスギなどは食害を受けやすく、グイマツ、トドマツ、アカエゾマツなどは食害を受けにくいことが知られています。本州では、カラマツやスギに加え、ヒノキやアカマツでも被害が発生しています。食害の受けやすさは、樹皮の化学成分と関連しているようです。樹脂やテルペン類などの食害に対する防御効果を持つた化学物質を樹皮に多く含む樹種は、被害を受けにくいのです。



ハタネズミの写真



ヤチネズミの写真 (岩佐真宏氏撮影)



アカネズミの写真

4 被害を起こす野ネズミ

野ネズミとひとくくりにしてきましたが、実際に被害を起こすのはどんなネズミなのでしょう。東北地方の森林には4種類の野ネズミ（アカネズミ、ヒメネズミ、ヤチネズミ、ハタネズミ）が生息していますが、そのすべてが木をかじるわけではありません。被害を起こすのは主にハタネズミで、アカネズミとヒメネズミが造林木を食害することはありません。ハタネズミは通常は草地や畑に生息しますが、数が増えると造林地に侵入し、樹木に被害を与えます。近年の造林面積の減少に伴い、ハタネズミによる森林被害は減少しています。ヤチネズミも木をかじるので森林被害を起こす可能性があります。ヤチネズミは、生息地が湿潤な沢沿いなどに限定されるためか、本州ではあまり大きな問題になっていません。

ヤチネズミとハタネズミは、一般にイメージされるネズミとはかなり異なった外見をしています。尾は体の半分程度の長さしかなく、ずんぐりとした体型で、目や耳が小さいという特徴があります。一方、アカネズミとヒメネズミは、目や耳が大きく、尾は体と同じかそれ以上の長さがあります。

ヤチネズミとハタネズミは、草木

の葉、茎、根、樹皮や種子などを食べます。アカネズミやヒメネズミの主食は様々な植物の種子ですが、柔らかい植物（芽生えなど）や昆虫なども食べます。また、ドングリを持ち運び、土の中に貯蔵することで樹木の更新の手助けをするという一面も持っています。森林被害の現場でアカネズミやヒメネズミが捕獲されても、彼らは犯人ではありません。ふたたび、森に帰してあげましょう。

5 岩手での被害記録

岩手県では平成19年に12haの被害が記録されて以来、県の統計上は野ネズミの被害は記録されていません。しかし、昭和39年から40年には野ネズミが大発生し、合わせて4千haを越える大規模な被害がありました。伐採跡地への再造林率が上昇すれば野ネズミの被害が増える可能性もあり、今後も野ネズミの動向に注意を払う必要があるでしょう。

森林総合研究所東北支所

島田 卓哉

019 (641) 2150